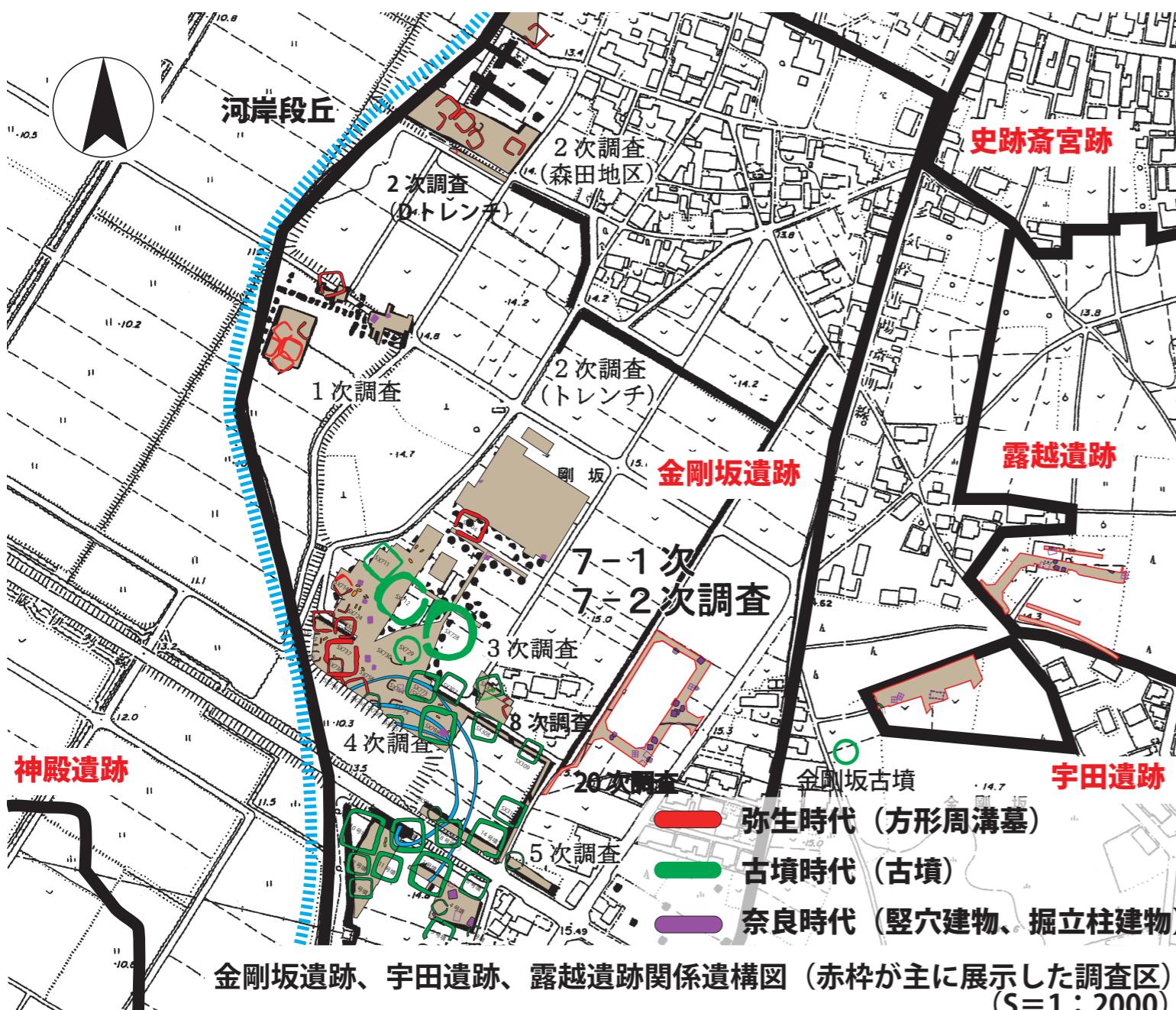


4. 仕事 から考える古代の暮らし

どのような仕事をしていたのかは、暮らしを考える上でとても重要です。金剛坂遺跡からは、ものづくりに欠かせない道具が出土しています。短い期間だけの集落であったことから、斎宮を拡張、造営するためのキャンプ村のようなものがあったかもしれません。高床倉庫があることから、斎宮に納める品物を管理する仕事もしていたかもしれませんので、今後の研究課題となっています。

また、豊穴建物6からは、まじないの記号と考えられる「ドーマン」の刻みを入れた土器が複数見つかっています。これは、現在でも海女さんが使っているまじないの記号で、魔除けの意味があります。占いも重視された古代、まじないをする人も住んでいたかもしれません。

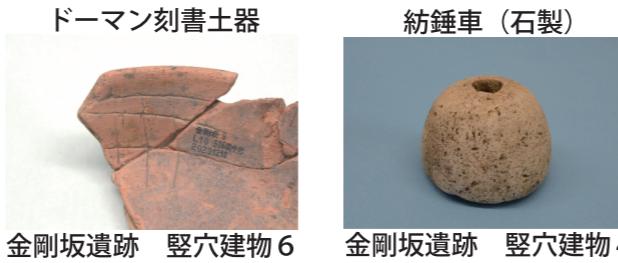


この資料は、企画展「竹川、金剛坂の古代の暮らし」(令和4年7月16日～8月28日)に合わせて作成したものです。

発行 明和町斎宮跡・文化観光課(三重県多気郡明和町大字馬之上945番地)初版
電話: 0596-52-7126/FAX: 0596-52-7133/E-mail: saikuuato@town.mie-meiba.lg.jp



金剛坂遺跡
豊穴建物8



明和町文化財解説シート 竹川、金剛坂の古代の暮らし

史跡斎宮跡に隣接する竹川南部、金剛坂では、近年奈良時代の集落が確認されており、斎宮跡との関係も注目されています。

今回は、令和2、3年に発掘した金剛坂遺跡、露越遺跡を中心に、古代の暮らしを考えながら、概要を紹介していきます。

1. 建物 から考える古代の暮らし

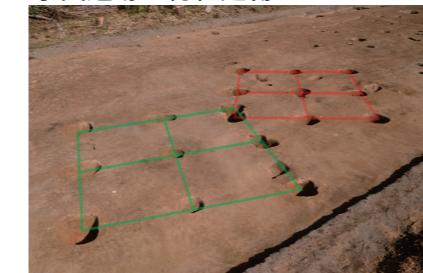
金剛坂遺跡、露越遺跡では、奈良時代後期の半地下式の豊穴建物が確認されています。当時の貴族層は、すでに豊穴建物には暮らしていなかったと考えられており、柱を建てて、板壁や土壁などを作り、板張りの床か土間で暮らしていたようです。一方、庶民層は豊穴建物に住んでいたようです。

ただ、掘立柱の建物も見つかっており、特に柱を9本持つ総柱建物という高床構造の建物も確認されています。これは住居ではなく、倉庫のようなものと考えられ、斎宮に関わる品物などが納められていた可能性があります。

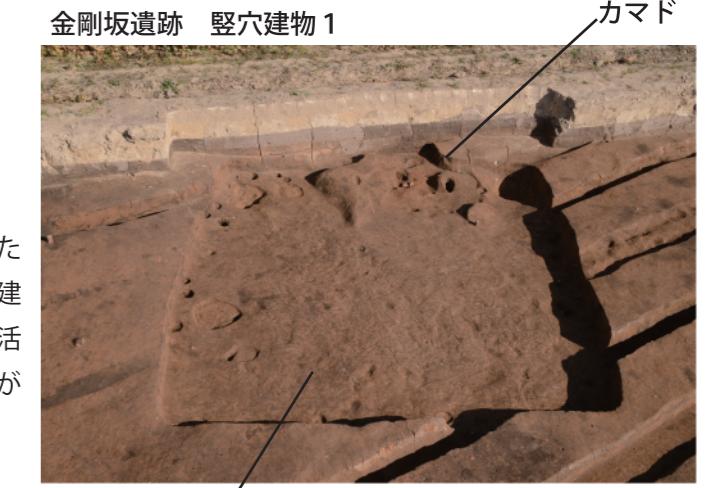
◆方格街区整備後の斎宮再現画像



宇田遺跡 総柱建物



貴族、官人が配置されていた斎宮では、すべてが掘立柱建物で、豊穴建物はなく、生活スタイルが違っていたことがわかります。



床は土を混ぜて叩き締めており、固い

★奈良時代の豊穴建物の特徴
①主な柱穴がないものが多く、構造が不明。
②3～4m前後の正方形または長方形で小さい。
③壁の一部にカマドを設置している。
④床を固く叩き締めて、土間のようにしている。

2. 土器 から考える古代の暮らし

豊穴建物を発掘すると、建物の床面に当時据え置いた状態のままで残っている土器があります。金剛坂遺跡では、逆さに置いてある甕が豊穴建物8、12で確認され、露越遺跡では、杯が重なって床面に置いてあるものが確認されました。建物床面で見つかる土器は、当時の食器セットをあらわしており、当時の台所事情を知る貴重な機会になっています。

金剛坂遺跡豊穴建物8 カマド



カマドの近くの床に、逆さにして置かれていた甕で、料理に使っていたものと考えられます。

露越遺跡 豊穴建物4



★奈良時代の土器セット
▼煮炊き、料理用
甕、鍋、鉢、カマド
▼盛付け、食器用
皿、杯、椀、高杯

豊穴建物の隅に置かれていた土器で、甕や杯が重なっていました。
置く場所が決まっていたのでしょうか。

3. 地形 から考える古代の暮らし

★この地図から主に以下のことことがわかります。

- ①標高が高いところに遺跡があり、斎宮跡の「飛鳥～奈良斎宮区画」は、北に向かってのびる高い場所にある。
- ②川の近くの高台に集落や建物が多い。
- ③露越遺跡の東側で、建物が見つかっていないのは、地形的に低いことが要因かもしれない。
- ④竪穴建物は、斎宮跡でも周囲の遺跡でも確認でき、金剛坂、宇田遺跡でも相当の集落があったことがわかる。

しかし、奈良時代の次の平安時代になると、金剛坂周辺では、ほとんど集落や建物が確認されなくなります。現在の調査成果の検討では、西暦で考えると、およそ740年ごろに建物が作られ始め、40年ほど集落が営まれた後に、なくなってしまうことがわかっています。

奈良時代後期は、斎宮の中で、方格街区という碁盤の目状の都市区画を造るという画期にあたるので、それに露越、金剛坂遺跡の集落が関係していた可能性があり、注目されます。また、川に近いため、物資流通の拠点などが神殿遺跡や馬渡遺跡にあった可能性もあります。

奈良時代後期の年表と
発掘調査に基づく動向

	720年ごろまでに古代伊勢道が整備されたか	
天平2年	730年	斎宮の財政が神宮から自立する
		740年ごろ 金剛坂周辺で建物が多くなる
宝亀2年	771年	気太王が斎宮造営に派遣される
		金剛坂周辺で建物がなくなる
780年ごろ		斎宮で方格街区造営に着手か
延暦4年	785年	紀作良が造斎宮長官となる

祓川

寺垣内遺跡
川原口遺跡

